

火打山における協働型環境保全活動について

1. 火打山における保全活動について

環境省は、気候変動に伴う植生変化が判明した火打山周辺におけるニホンライチョウの生息地域について、平成 28 年度よりイネ科等植物の除去によるニホンライチョウの生息環境の変化やその保全、並びに地域住民との協働型の環境保全活動の体制づくりなどによるニホンライチョウの保護対策について妙高市とともに活動を進めている。

3 年間の調査の結果、イネ科等植物除去により、イネ科等植物の被度の低下が確認され、コケモモ等の主要な植物の開花・結実数（株数）やライチョウ採餌植物等の開花・結実種数の増加への効果が示唆され始めている。今後も引き続き調査を継続し、その効果を精査していく予定である。

さらに、平成 31 年 1 月に開催されたライチョウ保護増殖検討会では、イネ科等植物の繁茂による餌植物の消失だけでなく、孵化したヒナが生育する環境をも奪っている可能性が指摘された。孵化直後から移動を繰り返して採餌するヒナにとって、高茎のイネ科等植物は大きな障害物であり、親からはぐれる可能性も非常に高くなる。現に、かつてライチョウが繁殖や採餌に利用していたライチョウ平では、イネ科等植物の繁茂とともに近年はライチョウの姿が確認されていない。

こうした状況を踏まえて、気候変動に伴う植生変化は直接的にもライチョウの生息を脅かす現象であると考えられ、イネ科等植物除去作業をライチョウ保護増殖事業に位置づけ、ライチョウ生息地回復を目指す試験的取り組みが必要と検討会で判断された。ライチョウが生息する他山岳でも同様の変化が起こり得る可能性が十分考えられ、採餌行動と植生との関連や生息地に必要な条件の知見を収集していく必要がある。同時に、火打山山頂直下のようにライチョウの採餌場として重要な箇所をイネ科等植物の繁茂から守るとともに、ライチョウ平でのイネ科等植物除去により、生息地を改善してライチョウを呼び戻す先駆的事业を計画立てて実施していく予定である。

2. 令和元年度の活動予定

第 1 回：7 月 12 日（金）～14 日（日）

第 2 回：8 月 30 日（金）～9 月 1 日（日）

3. 活動内容

- (1) イネ科等除去作業
- (2) 生息環境改善候補地の設定及び計画の作成



写真1 ライチョウが見られなくなったライチョウ平



写真2 南アルプス北岳において活発に動き回り採食中の家族（平成29年7月9日）

写真3 ライチョウ平（平成30年9月21日）



写真4 火打山でライチョウ家族が採餌に集まる山頂直下（平成30年8月30日）